教皇様は「見捨てられた聖櫃の使徒」を 列聖されました。

10月16日(日)、教皇フランシスコは福者マアンスコは福者を列聖されまとの世紀がより、新聖人はガスコを教は20世紀がの聖紀がのでありまり、かられてスクのでもありました。

20世紀前半のスペインの教会で最も知られた人物の一人であったマヌエル・ゴンサレス司教は、見捨てられた聖櫃の使徒と呼ばれました。聖体への信仰の模範として、2001年、聖ヨハネ・パウロ2世により列福され、その15年後、慈しみの聖年の終りに列聖されました。

聖マヌエル・ゴンサレスは1877年、スペインのセビリアで生まれました。司祭叙階後、パロマレス・デル・リオ(セビリア)とウエルバで働きました。当時、スペイン社会は関心が広がっているました。その中で、聖人は愛とすぐれた賢慮もって、信心の道を開拓しました。

司祭となったこの聖人の教えに際 立っていたことは、「聖体化する」 という言葉を「発明」したことだ と、専門家たちは言います。それ は、「人々がキリストから湧き出る 命を生きるために、人々のために躍動しているイエスの聖心に人々を導き入れ、皆を聖体に近づける」という意味なのです。

マラガ、マドリード、パレンシア

1916年、マラガの司教となりました。特に力を注いだことは司祭の養成でした。彼の挑戦の一つは、「聖体が中心となり、できる限り大きな影響を与える神学校を築く、すなわち、本質的に聖体的な神学校の建設」だったのです。

1931年、スペインに反キリスト教的な共和制が樹立すると、彼はマラガを離れることを余儀なくされ、ジラルタルに移りました。その後、1932年にはマドリードへ移ります。このマドリード滞在中、聖ホセマリーは司教をしばしば訪れまして。とがありませんでした。ゴンサレスリアはき牧者の姿を見た聖ホセマリア

は、まだ司教が生きていたときに も、彼のことを「聖人」と呼んでい ました。

マヌエル・ゴンセレス司教とオプ ス・デイ創立者 from **Opus Dei**

1935年、パレンシアの司教に任命され、1940年1月4日に当地で帰天。パレンシアの大聖堂に葬られました。聖体の小聖堂にある彼の墓には次の言葉が刻まれています。「聖櫃のそばに葬られることを願う。生前、死後も私の骨がここを訪れる人に言いおらけるように。『そこにイエスがおけるように。『そこにイエスを見けるようにない!』」

『道』に記された信仰の模範

『道』の531番には、聖マヌエル・ゴンサレス司教と聖ホセマリアの友情が表れています。「『わが主を大切にしてください。お願いします』

と、老司教は、涙を浮かべて、叙階 されたばかりの司祭たちに語ってい た。主よ、多くのキリスト者の耳と 心に、同様に叫びかける声と権威が ほしいと思います。」

この「老司教」とは、聖マヌエル・マヌエル・マンサレスのことであると聖ホセセリアはしば説明していましたの信心の信心の言義の言義を表していたのです。そのアもも多いです。と執筆アを引用していました。中のでは、まだ司教に良きなるでは、まだ司教が生せないました。

スペイン内乱が勃発してからも、二人の友情は続きます。1938年、聖ホセマリアがブルゴスに落ち着くと二人の付き合いが再開しました。その2年後、聖マヌエル・ゴンサレス司教は帰天します。その際、聖ホセマ

リアは司教の秘書に手紙で送り、次の依頼を書き添えました。「マヌエル司教様の思い出になるものいただけましたら、私にとってどれほどの喜びであるか、ご理解いただけるものと存じます。このような厚かましいお願いをできるでしょうか?」

今でも、聖マヌエル・ゴンサレスが 創立した「償いの聖体の家族」に属 する男女の信徒、司祭、修道者、子 どもたちや若者たちの生活を通し て、新しい聖人の聖性は輝き続けて います。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/resseishiki-manuel-gonzalez/(2025/12/15)